



【サービス業導入事例】

株式会社ホテルアンドリゾート上越妙高 様

韓国で大手ホテルチェーンを運営するロッテ。日本初進出にともないシュナイダーエレクトリックのUPSを採用
建屋ごとに分散されたシステム環境の電源バックアップ体制を構築するため、
豊富なラインナップから必要容量に応じた最適なUPSを選択し安定稼働を実現



株式会社ホテルアンドリゾート上越妙高
ロッテアライリゾート 経営支援チーム
IT担当 係長
韓 哲輝 氏

株式会社ホテルアンドリゾート上越妙高（以下、ホテルアンドリゾート上越妙高）は、親会社であるホテルロッテの日本進出第1号であるロッテアライリゾートの開業にあたり、情報システムのインフラとしてシュナイダーのUPSを採用。サーバーールームにはモジュール型UPS「Symmetra PX」を導入して統合管理し、分散配置されている各棟には中・小型UPS「Smart-UPS RTシリーズ」を必要容量に応じて最適配置するなど、リゾートホテルならではのシステム環境事情に柔軟に対応した。

背景

- プレミアムリゾートホテルのハイレベルなサービスに相応しい高信頼で安定したITシステムの実現
- ホテル敷地に分散配置されたシステムに対応する最適なUPSの選定
- 情報システム部門の限られたスタッフでも運用可能なメンテナンスの容易性

導入コンポーネント

- Symmetra™ PX 20kVA × 1セット
- Smart-UPS™ RT 1500 × 5台
- Smart-UPS™ RT 2400 × 2台
- Smart-UPS™ RT 5000 × 3台
- Smart-UPS™ RT 10000 × 1台

導入効果

- 豊富なラインナップの中からシステム規模に応じた容量のUPSを選択でき、コスト最適化、省スペース化、安定運用、スムーズな導入・稼働開始が実現
- 都市部とほぼ同様の4時間以内駆けつけ・24時間365日のサポートの適用により、運用の安定化と管理者の負担軽減を実現
- サーバルーム内の電力消費が想定よりも少なく省エネに貢献

韓国ホテルロッテが日本初進出のホテルに実績あるシュナイダーの製品を採用

アジアトップクラスのホテルブランドとして、韓国、アメリカ、ロシア、ベトナムなど世界40か所に高級ホテルを展開するホテルロッテ（本社：韓国）は、2017年12月に新潟県妙高市に日本初進出となる長期滞在型の総合リゾート「ロッテアライリゾート」をオープンした。最大宿泊者数500名以上、約200万㎡の敷地に、日本有数の積雪量と極上のパウダースノーが自慢の全11コースを備えたスキー場をはじめ、ホテル、アドベンチャーアトラクション、ショッピングモール、温泉・プール・クアハウスなどが揃い、季節を問わず老若男女が楽しめる「地域と共存する最高のプレミアムマウンテンリゾート」をめざしている。この「アジア最大級」の複合レジャー施設の運営を支えているのが、ホテルロッテの100%子会社として2015年5月に日本に設立したホテルアンドリゾート上越妙高だ。

同社は、1993年に以前の事業者が大毛無山（標高1429m）に開発したレジャー施設を、2015年の公売を経てその土地・建物を引き継ぎ、2017年度冬季シーズンのオープンをめざして急ピッチで再開発を実施。その結果、ロッテアライリゾートは規模・サービスの質ともに大幅に拡大・強化され営業を開始した。その運営を支える情報システムにもホテルロッテのITインフラ構築のノウハウが活用され、インフラの電源をバックアップするUPSには、シュナイダーの製品が採用された。

ホテルアンドリゾート上越妙高 ロッテアライリゾート 経営支援チーム IT担当 係長の韓 哲輝氏は、シュナイダーを導入した理由について次のように述べる。「当社の記念すべき日本初進出となるホテルが最高のプレミアムリゾートになるためには、ITインフラにもそれに相応しい環境を構築する必要がありました。そこで、韓国本社でも採用実績のあるシュナイダーのUPSならば信頼性は確証済みであり、メンテナンス面でも負担が少なかったと考えました」

各棟に分散したPMS・POSの保護のためサーバーールームとは別に小型UPSを導入

同社のITの拠点であるサーバーールームは、主に3つのシステムで構成されている。1つはホテルの業務と運営に特化したPMS（Property Management System）と、PMSに連携するPOS・バックオフィス関連システム。2つ目は社内業務管理システム。3つ目はホテルロッテ本社の基幹サーバーと結ぶクラウドシステムだ。

中でも、PMSやPOSシステムは、利用客のチェックイン／チェックアウトや、ショップでの精算、各種施設・アトラクションの利用の基盤となるため、停電によるシステムダウンはサービス維持に大きく影響を与えることから、いかなる状況でも回避しなければならない。特に山間部のリゾート地は落雷や降雪など天候の影響を受けやすく、商工業が集中する都市部とは電力の供給状況も異なるため、信頼性の高いUPSが不可欠となっていた。

だが、開業準備段階の2016年当時は、まだUPSの仕様が固まっていなかったという。原因は、一般の都市型ホテルとは異なる、リゾートホテルならではの立地の特殊性だった。ロッテアライリ

ゾートは、サーバールームがある棟のほか、施設正面のメイン棟や、ゲストルーム・レストラン・ビジネスエリアを備える3つの棟、温泉・プール施設など、施設が敷地内に離れ家状態で散在しているほか、大毛無山中腹の標高950mに位置するゴンドラの終着駅ステーションや、ホテルから離れた森林区域のツリーアドベンチャーにも施設がある。それぞれにフードコートやショップなどが備わっているため、PMS やPOSシステム、ネットワーク機器が設置され、電源バックアップ用のUPSが必要となっていた。

また、来館いただいたお客様が各施設のご利用時やお会計時に万一停電になっても30分は業務が継続できるよう、一般のUPS仕様よりも長時間のバックアップ可能なバッテリー容量を確保することが導入の条件となっており、それも仕様の特定を揺るがせていた。

2017年春頃からさまざまな調査と分析を行った結果、最終的に、サーバールームには高性能な三相電源のモジュール型UPS「Symmetra PX」が導入され、各施設には高密度二重変換型オンラインUPS「Smart-UPS RT シリーズ」が必要容量に応じた最適配置されることとなった。

「ロッテアライリゾートは旧施設の配置を活かして改装したため、建屋が広範囲に分散し、それぞれにUPSを設置しなければなりませんでした。当初は中～小型UPSを多数導入するつもりでしたが、緻密なアセスメントの結果、サーバールームにはSymmetra PX 20kVAを導入して、電源バックアップの統括管理を実現する一方、リゾート全体の監視やコントロール機能を担うメイン棟には、小型でも容量に余裕にある『Smart-UPS RT 10000』を選定するなど、必要に応じて適切なモデルを採用できました。それも、シュナイダーのラインナップが豊富なおかげです」と韓氏は振り返る。

さらに、日本でシュナイダー製品を長年取り扱うパートナー企業もプロジェクトに協力。通訳を介して、最適なモデルの選定や、導入・構築の支援などで大きな役割を果たした。そうした国内での製品取り扱い体制も含め、グローバルスタンダードとなっているインフラシステムを提供しているシュナイダーのサポートネットワークを韓氏は高く評価する。「韓国のホテルロッテ本社も、日本のUPSベンダー事業にはあまり詳しくありません。その点、グループのホテルでも導入実績があるシュナイダーならば、日本国内での供給体制もしっかりしていると確信していました」

UPSの存在を忘れてしまうほどトラブルのない安定した運用が実現

2017年12月16日に、ロッテアライリゾートはグランドオープンを迎えた。“伝説のパウダースノースキー場”が10年ぶりに再開したと多くのメディアに取り上げられ、ホテルロッテの日本進出は上々の滑り出しを見せた。

オープン直後のハイシーズンを乗り越え、半年が経過した現在、韓氏は「UPSの存在を忘れてしまうほどトラブルもなく安定して運用ができています」と所見を述べる。また、同社はシュナイダーの4時間以内駆けつけ・24時間365日のサポートに契約しているが、ロケーションが地方のため、当初はそのサービスが守られるかどうか不安もあったという。

「オープン前の計画停電でバッテリーの電源スイッチを入れ忘れ、UPSからアラートが上がってきた時に、シュナイダーのカスタマーケアセンターに問い合わせしたところ、担当者から素早い確かなフォローがあり、無事解決することができました。それで



来、UPSのサポートについてはより安心感を持ち、本来の管理業務に専念することができるようになりました」

韓氏にとってこのエピソードは、UPSという重要な電源供給の要素を、少なくとも常に心配しなければならない対象から外することができるという、業務負担の軽減につながったと強調する。「サーバーもUPSも、充実したサポート体制が整えていることは、私たちユーザーから見ると大きな安心材料となりますのでこれからも引き続き支援いただきたいと思います」

また、Symmetra PXを採用したことで、サーバールーム内の消費電力は想定よりも大幅に下回ったという。「当ホテルは、温泉施設やゴンドラ・リフトなど電力を大量に使用する施設が多いため、省エネに貢献してくれるシステムはとてもありがたい存在です」（韓氏）

非日常を楽しむリゾートホテルにはプレミアムなサービスが求められる

ロッテアライリゾートはホテルロッテが日本に展開する第1号のホテルであり、今後日本でのさらなる展開につなげていくことも予想される。そのため、ホテルアンドリゾート上越妙高が管理する情報システムが、続くホテルのベンチマークとなるようしっかりとした運営が必要となってくる。そのひとつの手段として、韓氏は、UPS電源管理ソフトウェア「PowerChute シリーズ」を導入し、給電時間内にシステムを正常に終了させる自動シャットダウンの運用や、スケジュール運転、ネットワーク経由でのUPSの状態監視・制御などのノウハウを経験値として蓄積していくことも視野に入れているという。

そして、今回のUPS導入を振り返り、「極めてタイトなスケジュールにも関わらず、スムーズに構築・稼働開始でき、その後もトラブルなく運用が維持されていることは、長年培ってきたシュナイダーの製品力とサポート力のおかげだと考えています。今後も豊富な知見から、ホテル運営に役立つソリューションを積極的に提案していただきたいと思います」と韓氏は期待する。

非日常を楽しむために利用されるリゾートホテルは、利用者の期待値も高く、常にプレミアムなサービスが求められる。ホテルアンドリゾート上越妙高がめざす上質なおもてなしと、安心・安全のサービスを極めるため、シュナイダーは最先端のユーティリティと充実したサポートメニューでこれからも同社を支え続けていく。

“UPSの存在を忘れてしまうほどトラブルもなく安定して運用ができています”

株式会社ホテルアンドリゾート
上越妙高
ロッテアライリゾート
経営支援チーム
IT担当 係長
韓 哲輝 氏



製品カタログ一覧
<http://catalog.clubapc.jp/>



導入事例一覧
<http://catalog.clubapc.jp/#09>



シュナイダーエレクトリック ジャパングループ 会社案内
http://catalog.clubapc.jp/company_profile.pdf



シュナイダーエレクトリック ウェブサイト サイトナビゲーター
<http://www.ups-navi.jp/navi/>

株式会社ホテルアンドリゾート上越妙高 様 企業紹介

- 事業概要：世界40か所に高級ホテルを展開する韓国最大規模のホテルグループ「ホテルロッテ」(LOTTE Hotels & Resorts 本社・韓国ソウル市)が100%出資する子会社。2015年5月に日本で設立。旧新井市(現在の妙高市)などの第3セクターが大毛無山(1429m)に開発した滞在型レジャー施設の土地を引き継ぎ、通年楽しめる長期滞在型の総合リゾート「ロッテアライリゾート」として2017年12月にオープン。キャッチフレーズは「地域と共存する最高のプレミアムマウンテンリゾート」。
- 所在地：〒944-0062 新潟県妙高市両善寺 1966
- 設立：2015年5月1日
- URL：<https://lottearairesort.com/>

シュナイダーエレクトリック株式会社

〒108-0023
 東京都港区芝浦2-15-6 オアーズ芝浦MJビル
 TEL：03-5931-7500

schneider-electric.com/jp
apc.com/jp

May 2018

©2018 Schneider Electric. All Rights Reserved. Life Is On Schneider Electric is a trademark and the property of Schneider Electric SE, its subsidiaries and affiliated companies. All other trademarks are the property of their respective owners.

May2018-LAR

Life Is On

Schneider
Electric